

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市市名坂児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 15,278 人 (前年度比 63.5 %) 令和元年度 24,053人 平成30年度 24,906人 平成29年度 21,737人 《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 38,951 千円 ( 38,260 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 ( 0千円) ・ その他収入 0千円 ( 0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。施設内外の環境美化にも努めており、特に児童館フェンス沿いに飾られた季節の鉢花は地域からも好評である。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（ 特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク ）による自己評価》
<p>「笑顔がいっぱい」「仲間がいっぱい」「支えあいがいっぱい」のスローガンの実現をめざし、職員・利用者・クラブ児童・保護者への浸透を図りながら児童館運営に努めた。今年度はコロナ禍の中、感染ゼロを最重要課題としながら、様々な創意工夫でより良い事業を実施してきた。</p> <p>子育て支援事業では、転勤族、核家族世帯の多い地域の事情を踏まえ、乳幼児親子同士の交流と育児の悩み相談や身体を動かしストレス発散の場となるような行事の工夫や居場所作りに努力してきた。コロナ禍により行事の自粛及び利用の制限の中で工夫しながらの運営となった。</p> <p>児童クラブは登録児童が4月開設時には132名の受け入れでスタートし、サテライトを借用している学校との良好な関係を構築した。隣接する自然豊かな「学校の森」を活用させていただき自然体験や豊かな遊びや野菜作り等の体験をさせることに意を尽くしてきた。12月の児童アンケートではほとんどの児童が児童館を好きだと答えている。</p> <p>地域交流事業は、地域の子育て支援事業がすべて中止となり参加貢献はできなかった。通り沿いには四季折々の花を飾り、学校の森灯りファンタジーとともに、地域の方々から大いに喜んでいただいた。</p> <p>今後も、子ども達や利用者の笑顔が各家庭のリビングや地域に広がり、地域の皆様に愛される児童館をめざし職員一同取り組んでいきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、日常の中での自由工作や手芸、季節ごとに自然遊びを楽しむ「がきんちょ楽校」や畑活動などの遊びへの豊かな取り組み、また児童クラブ活動での高学年リーダーの育成を通して、子どもの豊かな心身の育ちを支援している。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、「プラレールDAY」でのレールを組み立てや「カリメロぶち」の「お店屋さんごっこ」で食べ物サンプル作りで児童クラブの小学生が活躍し、間接的に交流を持つ機会を設け、乳幼児親子にも大好評であった。</p> <p>各児童館事業を網羅した大きな取り組みとして、日頃より子ども達が自然と親しむ憩いの場となっている「学校の森」での「灯りファンタジー」があげられる。児童クラブの子ども達で桜の木に花を咲かせようと飾り付けをし、自由来館の小学生はペットボトルでのシンボルトワーを作った。地域の乳幼児家庭はキャンドルを作り、地域の方々には竹灯籠を飾り、近隣の保育園の年長児はランタンを作り保育園のフェンス越しに飾った。二週間の開催期間にはイベントを行い、児童クラブの子ども達のハンドベル演奏や保育園の子ども達の踊りを披露し、児童館を利用する子ども達や保護者、地域の方々にも楽しんでもらえる行事となった。コロナ禍での制限の多い活動の中で工夫を凝らし、児童館を中心とした積極的な働きかけで、繋がりをより深めることができた。また、日頃より積極的な地域交流に取り組んでおり、児童館周りのフラワーロード活動では利用者のみならず、通り行く地域の方々や親子に声をかけ、ガーデニングを通して会話を楽しんだり水やり体験をしたりなど、交流の場となっている。子どもを中心とした地域の交流の拠点としての役割を十分に果たしており、評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課